

教職課程センター・地域学校教育センター

特集 浦安市との連携事業が本格始動！

明海大学・浦安市教育委員会主催「明日から使える英語の授業講座」
2017年8月29日(火) 実施

浦安市 細田玲子教育長 開式のご挨拶

文字指導の工夫に続き、参加者は教室を移動。机を片付けて車座になり隣同士英語で自己紹介、じゃんけんでパートナーを入れ替え再び自己紹介を行いました。続いて、小学校の先生自身が指示を英語で出すために必要なクラスルーム・イングリッシュを百瀬美帆准教授のモデルに続いて練習しました。初めは不安そうだった参加者も、”I like cakes.” など、身近な話題について簡単な英語で話すうちに笑顔が溢れるようになりました。参加者は、ふわふわボールを投げ、受け取った人が次の話し手になるという活動を楽しみながら、教室ではこれが児童生徒の発話のきっかけ作りであることを体験しました。

後半は小学校・中学校に分かれての模擬授業。小学校では「自分の誕生日を言えるようにする活動」、中学校では「映像を活用したリテリングの指導」を行いました。また、模擬授業前に廊下に準備した模造紙に観覧者が得意とする活動や日ごろの悩みを書き出し、最後のセッションで話題を共有しました。市内に勤務する先生方の情報共有の場の提供という意味でも今回の講座は大きな役割を果たしたと言えます。講座の様子は翌日の8月30日にJ:COMチャンネル(市川市・浦安市)のニュースで報じられました。映像は明海大学フェイスブックから見ることができます。

<https://www.facebook.com/meikai.univ/>

参加者アンケートより

- できる限りオールイングリッシュでやってみようと思いました。(小学校教諭)
- 英語が苦手でも、簡単な単語でわかるように伝えればよいとわかり安心しました。(小学校教諭)
- 簡単な単語やフレーズを使えば小学生にも理解できると感じました。(小学校教諭)
- 「あいまいさに耐える力」という言葉に納得しました。この力は、これからの社会(グローバル化 etc.)で大切であると思います。(小学校教諭)

市立美浜南小学校

7月12日から14日と18日に、外国語学部日本語学科の学生が美浜南小学校「さわやかスクール」に参加し、補完授業補助を行いました。



昨年夏と冬に引き続き、今回は3度目の実施です。1年生から6年生までのそれぞれの補習クラスで、先生方のご指導のもと学生延べ16名が子どもたちの指導を行いました。学生は、活動中毎日専用のSNSでフィードバックを行い、体験を言葉にして改善点を考え、事後活動でそれぞれの気づきや学びをまとめました。リーダーをはじめ昨年経験した先輩が適切なフォローをし、参加学生全員が成長を感じることができました。(写真上は3年栗原、下は4年栗林)

活動参加学生

- 4年 栗林倫也、小倉拓人
- 3年 前田航大、櫻井勝成
小池智也、遠藤風貴
稲石 励、杉原康太
栗原 廉、鈴木瞭太
- 2年 瀧本隆誠、佐藤里奈
和田涼太、山之辺優喜
宮里拓夢、茂呂俊祐



3年 前田航大（リーダー）
2回目だからこそできた経験もありました。初回と同じような対応をしても、学年が違うだけで反応がまったく違います。教えるということの難しさを改めて知ることができました。そして、対応する力。うまくいかないことが多く大変でしたが、フィードバックを行い、意見を共有したことで、失敗したことも意味あるものだったと思うことができました。次の機会があれば周りの意見を参考にしようと思います。

コミュニケーションとアプローチ



初めて美浜南小学校のボランティアに参加し緊張しましたが、先輩方のサポートもあり楽しく行えました。5年生と3年生を担当し、学年での集中力の違いや意識の差を感じ有意義でした。色々な方のフィードバックを読んでコミュニケ

ーションは学年または向き合う児童次第でアプローチの方法を変える必要があると考えさせられました。人見知りの子には無理に踏み込まず最初は少し声をかける程度にし、逆に人懐っこい子には積極的に話してあげた方がすぐに仲良くなれます。ずっと優しくおしゃべりをしているだけでは児童の学力向上には繋がらないので、メリハリをつけることも大切だと思います。例えば、問題を解く時間に制限をつける、プリント1枚終わったら2分休憩するなどその児童の集中力に合わせて決めてあげるとより効果的に学習できると思いました。今後機会があれば、学年によって生徒によってコミュニケーションのアプローチを変えること、メリハリをつけることを意識して取り組んでみます。(2年 佐藤里奈)



2年 宮里拓夢

初めての小学生ボランティア参加は、とても充実したものになりました。初めは緊張で上手く声をかけられなかったけれど、だんだん慣れてきて程よく声をかけながら楽しくできました。ある学級では一人の児童を担当しましたが、その児童に対してうまい声掛けをもっと出来たのではないかと今になって考えます。事後活動の時に先輩方の考えや実践したことを聞きました。自分でもっと出来ることを増やしていきます。

市立北部小学校

小学校での翻訳ボランティア（中国語学科）

明海大学と浦安市の連携協定の1つとして、中国語学科専任教員の指導のもと、同学科専門科目で日本語・中国語の通訳を学ぶ学生により、小学校からのおしらせプリントを中国語に翻訳し中国語圏の保護者に提供するボランティア活動が、浦安市北部小学校との間で7月から開始しました。地域貢献と翻訳スキルの向上を兼ねた有意義な活動です。